

2019 年度 A O 選抜 薬学部
「実験評価方式」

【選考講評】

1. 実施状況

学科・学域・専攻	志願者数	最終合格者数
創薬科学科	5	3

2. 試験内容

(1) 書類選考

エントリーシート、調査書

(2) 実験・レポート作成・面接

選択分野に関する実験、レポート作成、面接評価

3. 出題の意図

(1) 書類選考

志望動機や将来の展望について、基礎学力について確認することを目的としました。

(2) 実験・レポート・面接

目的を把握し安全な実験をする能力、結果の観察力、論理的な表現力、コミュニケーション能力を確認することを目的としました。

4. 評価のポイント

(1) 書類選考

エントリーシートと調査書より、志望動機や学習意欲・関心を含め総合的に評価しました。特に、志望動機については、創薬科学分野への関心が高いかという点にポイントを置きました。

(2) 実験・レポート・面接

実験（化学・生物）では、事前講義の内容把握や実験遂行状況について、具体的な評価項目を設け評価しました。特に、実験の目的を正しく把握しているか、実験操作が手順書通りに進められているか、注意事項を守っているかという点にポイントを置いた評価を行ないました。レポートでは、実験の結果が正しく記録されてい

るか、理科の基礎的な知識に基づいて結果の論理的な考察がなされているか、という点にポイントを置きました。面接では、志望理由や入学後の展望、将来の展望についてははっきりと答えられるか、レポートの記載内容について質疑に答えられるかを評価しました。

5. 解答状況

化学は受験生3名で、滴定を利用し特定の化合物の定量を行ないました。複数回の定量を行うことを前提に、各実験手順を要領よく行う必要がありました。受験生によっては、実験の概要が掴めておらず著しく手間取り、予定した回数の定量ができていない場合もありました。このような場合は、定量前にすべき作業を理解し、同時に行えることは同時にやるなど、実験を効率的に進められる発想も必要です。

生物は受験生1名で、白子からのDNA抽出を行ないました。遠心機など、高校生では使い慣れない実験器具もありましたが、事前に十分な使用練習を行ったため、実験は概ね時間内に完了できました。

6. 次年度受験生へのアドバイス

創薬科学科では、化学、生物、物理の複数の領域にまたがった専門科目や実験実習を履修します。そのため、理科の全てが得意科目である必要はありませんが、自然科学に高い関心をもっていることが望ましいです。実験概要は、募集要項に記載されているので、関連の点について事前学習しておく取り組みやすいでしょう。また、本受験方式は、単に器具操作の上手さを評価するものではありません。事前講義も参考にしながら、どういったことに注意すれば安全で、効率的に実験目的を達成できるかを考え実験することが大切です。

以上